

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 8 月 25 日現在

機関番号：34426

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02239

研究課題名(和文) 多文化共生社会の構築における宗教の社会的役割に関する実証的研究

研究課題名(英文) An Empirical Study on the Social Role of Religion in Building a Multicultural Society

研究代表者

白波瀬 達也 (SHIRAHASE, TATSUYA)

桃山学院大学・社会学部・准教授

研究者番号：40612924

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は現代日本で増加する移民に宗教組織がどのように対応しているのか実証的に明らかにすることである。主な調査対象は移民の拠点となっているキリスト教系組織、イスラーム系組織などの宗教組織である。その他、国際交流を目的としたアソシエーションの調査をすることで市民社会と信仰に基づく移民集団との関わりの実態が把握できた。本研究の結果、宗教組織内での多文化共生については一定程度、図られていることが確認できたが、宗教組織外における多文化共生の実現に課題が多くあることが確認できた。本研究の最大の成果は『現代日本の宗教と多文化共生』という書籍を刊行することができたことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究プロジェクトの学術的意義は、地域社会をフィールドに設定することで、多文化共生をはじめとする移民研究と宗教社会学における移民研究の接合が実現できたことである。学際的なプロジェクトであったため、社会学を中心に文化人類学、宗教学、社会福祉学における知見を総合することができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this project is to empirically clarify how religious organizations are responding to the increasing number of immigrants in contemporary Japan from the perspective of multicultural coexistence. The main targets of the survey are religious organizations, such as Christian and Islamic organizations, that serve as bases for immigrants. In addition to this, by surveying associations for the purpose of international exchange, we were able to grasp the actual state of relations between civil society and faith-based immigrant groups. As a result of this research, we were able to confirm that a certain degree of multicultural coexistence has been achieved within religious organizations, but that there are many issues to be addressed in realizing multicultural coexistence outside of religious organizations. The greatest achievement of this research was the publication of a book entitled "Religion and Multicultural Coexistence. in Contemporary Japan."

研究分野：宗教学、社会学

キーワード：移民 宗教 多文化共生 カトリック ムスリム

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 日本では 1990 年代以降、ニューカマーと呼ばれる移民が右肩上がりに増加している。一方で、社会統合に向けた本格的な移民政策は取られておらず、生活につきまとう様々なリスクを移民の当事者が引き受けざるを得ない状況がある。したがって彼らはエスニック・コミュニティを形成することが少なくなく、中には宗教組織それ自身が移民の生存を支える重要な社会資源になっていることもある。これまでの多文化共生の研究では移民が集う宗教組織の社会的役割をほとんど扱ってきてもならず、その実態が十分に明らかにされてこなかった。

(2) 日本は先進国のなかでは移民の数が少ない。日本政府は日本国籍をもたない移民のことを「在留外国人」と呼んでいるが、その数は 2015 年の時点で約 220 万人となっている。2016 年における日本の全人口に占める移民の割合は 2%弱で、OECD 諸国のなかでは低い水準である。移民受け入れ国として有名なオーストラリアやカナダは 20%を超えているし、アメリカ合衆国、ドイツ、フランス、イギリスといった先進主要国も 10%を超える。これらの国と比較すると、まだまだ日本は移民の存在感は小さいが、1959 年の調査開始以来、最多を記録している。

日本では 1980 年代に入るとパブやスナックで就労するフィリピン人女性が増加した。また建設・製造業の労働力不足を補うべく、パキスタン、イラン、バングラデシュといった国々の男性が増加した。さらに結婚難に悩む農村では男性の配偶者としての中国人やフィリピン人の外国人花嫁が増加した。このように新しいタイプの移民の増加は宗教状況にも変化をもたらした。社会学者の三木英と櫻井義秀は、ニューカマーと呼ばれる移民の宗教の広がりが「宗教多元化」をもたらしていると指摘した [三木・櫻井編 2012]。ただし、ニューカマーは「顔の見えない定住化」[梶田・丹野・樋口 2005]を経験していることが少なくない。そのため、彼らが宗教とどのように結びついているのか、一般的には知られていない。つまり、「見知らぬ隣人の宗教」[三木・櫻井編 2012]とみなされる傾向があった。

(3) 一方、宗教と関わりの深い組織が日本における難民支援・移民支援を担ってきたという事実もある。とりわけ、市民団体による活動が成熟する前の段階において果たした役割は大きい。このように日本において移民と宗教が強く結び付くことが、ある場合には主流社会と距離のある飛び地のような空間 (ethnic enclave) を生み出し、またある場合には多文化共生社会の推進力となる。ただし、これまでの国内の研究において、移民に関わる宗教が果たす機能を論じたもの、多文化共生と関連から論じたものはほとんどなかった。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は現代日本で増加する移民に宗教組織がどのように対応しているのか実証的に明らかにすることである。主な調査対象は移民の拠点となっているキリスト教系組織、イスラーム系組織などの宗教組織である。

(2) この他、国際交流を目的としたアソシエーションの調査をすることで市民社会と信仰に基づく移民集団との関わりの実態を把握することを目指した。

## 3. 研究の方法

(1) 研究の方法は大きく 2 つに大別される。一つは先行研究のレビューである。移民と宗教に関する研究はアメリカ合衆国と EU で盛んに進められているため、双方の先行研究に目を配り、特徴の違いを捉え、何が論点になっているかを明らかにした。

(2) もう一つの研究方法は実地調査である。本研究では主に移民が多く集うキリスト教の教会とイスラーム教のモスク・マシッドを調査し、活動に関する参与観察をおこなった他、キーパーソンへのインタビューを実施した。また、移民の社会統合に向けた諸活動をおこなう国際交流協会のインタビューも実施した。

## 4. 研究成果

(1) 先行研究のレビューから把握できた重要な知見は以下の通りである。アメリカでは宗教が移民の社会統合を促進する「橋」の役割を果たしがちであるのに対し、EU では宗教が移民の社会統合を阻害する「壁」の役割を果たしがちであることがわかった [Foner and Alba 2008]。米国では移民の宗教が単に避難所として機能するだけではない。社会的地位を確保したり、社会階層を上昇させたり、市民としてのスキルを高めたりと、様々な正の機能を果たしている。国民の大多数が信仰を持ち、宗教に対する信頼度も高い米国では、信仰活動や、宗教にちなんだコミュニテ

ィ活動に参加することで移民が「アメリカ人になる」という側面がある。一方、ヨーロッパ諸国では、米国とは異なり、移民が関わる宗教は解決（solution）ではなく問題（problem）だと見なされる傾向がある。ヨーロッパ諸国の移民の多くはムスリムであり、移民の宗教に関する研究もイスラームに偏重している。そしてムスリムが、社会統合への障壁や挑戦、主流の制度や慣行との葛藤の源泉と分析されることが少なくない。ヨーロッパ諸国では移民の宗教が既存の価値や社会統合を脅かすものとみなされ、差別や偏見も強い。また地域社会における古くからの住民とニューカマーであるムスリムとの軋轢も顕在化している。

(2) 一連の実地調査研究から把握できたことは以下の通りである。日本においては宗教組織が移民の生活の安定化を支える重要な社会資源になっている。日常的には文化や言語を継承する場として機能しており、不況や災害などの非常時には支援活動の拠点になることがわかった。また同胞を支援する場所としてだけでなく、異なる信仰を持つ社会集団に対する支援を提供する場合も少なくないことがわかった。移民が多く集う宗教組織の中には単一のエスニシティで構成されるケースもあるが、複数のエスニシティで構成されるケースもある。本研究では前者をモノエスニックな宗教組織、後者をマルチエスニックな宗教組織と呼び、とりわけ後者において日常的な多文化共生の営みが見られることを明らかにした。こうした営みを「宗教組織内」多文化共生という概念で説明した。とりわけカトリック教会の場合は、宗教組織内の多文化共生を推進するための指針を明確に持っており、いくつかの中核的な拠点では支援業務にあたる専従者を配置してソーシャルワークを実施していることがわかった。

移民が多く集う宗教組織の一部は地域社会における多文化共生を牽引する担い手とみなしうる活動をおこなっているが、地方自治体や国際交流協会との連携はさほど密ではなく、政策上も重要なカウンターパートとは未だみなされていないことが明らかになった。地方自治体や国際交流協会が移民の信仰に対する適切な知識を身につけ、宗教組織との協働可能性を図っていくことは今後の多文化共生社会の実現に向かって最重要課題であることが一連の調査から導き出された結論である。

本研究の主な成果は研究代表者と研究分担者が編者を務めた『現代日本の宗教と多文化共生 移民と地域社会の関係性を探る』（2018年、明石書店）にまとめた。その後、研究成果を国内外の学会で発表してきた。2019年度の後半から2020年度にかけては新型コロナウイルスの深刻化に伴い、予定していた社会調査、学会発表の中断を余儀なくされた。研究期間は終了したが、研究成果は2021年度以降にも発表していく予定である。

#### < 引用文献 >

Foner, Nancy and Richard Alba 2008 “Immigrant Religion in the U.S. and Western Europe: Bridge or Barrier to Inclusion?” *International Migration Review* 42(2): 360-392.

梶田孝道・丹野清人・樋口直人 2005 『顔の見えない定住化—日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク—』名古屋大学出版会。

三木英・櫻井義秀編 2012 『日本に生きる移民たちの宗教生活—ニューカマーのもたらす宗教多文化—』ミネルヴァ書房。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 呉 宣児・岡井 宏文	4. 巻 21
2. 論文標題 フィリピン系ニューカマー女性と宗教の関わりーライフストーリーの分析からー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 共愛学園前橋国際大学論集	6. 最初と最後の頁 13-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 OKAI Hirofumi	4. 巻 20
2. 論文標題 Analysis on Non-Muslim Residents' Perceptions of Islam and Muslims in one Local Japanese Community	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 共愛学園前橋国際大学論集	6. 最初と最後の頁 99-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 TAKAHASHI Norihito	4. 巻 57（2）
2. 論文標題 Japanese Religions in Contemporary Europe: Social Roles of Cultural Activities	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 21-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋 典史	4. 巻 57
2. 論文標題 現代ヨーロッパにおける日系宗教ー文化活動の社会的役割に注目してー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 21-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 徳田 剛	4. 巻 46
2. 論文標題 地方在住外国人の増加と地域社会の対応についての考察 –ローカルガバナンス論の視点から–	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会分析	6. 最初と最後の頁 3-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白波瀬 達也	4. 巻 14
2. 論文標題 福祉領域に再参入する宗教	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 福祉社会学研究	6. 最初と最後の頁 51-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Bik Kai Sia, Hirofumi Okai, Sor Tho Ng, Hirofumi Tanada, Nai Peng Tey	4. 巻 5(4)
2. 論文標題 Intention to migrate among international Muslim students in Malaysia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Global Journal of Business and Social Science Review	6. 最初と最後の頁 35-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 高橋 典史
2. 発表標題 在日ベトナム人と宗教
3. 学会等名 国際開発学会 「人の移動と開発」研究部会 オンラインセミナー「コロナ禍における在日ベトナム人社会と宗教」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡井 宏文
2. 発表標題 在日イスラーム団体の社会活動とネットワーク：日本イスラーム文化センターを事例として
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya Shirahase
2. 発表標題 Multicultural Coexistence and Religion in Contemporary Japan (1): Typology of "Multicultural Coexistence" in Immigrant-Related Religious Organizations
3. 学会等名 EASSSR(East Asian Society for the Scientific Study of Religion) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsumasa Nagata
2. 発表標題 Multicultural Coexistence and Religion in Contemporary Japan (2): Filipino Social Relationships Based on a Community Welfare Facility Related to the Catholic Church in Kyoto City
3. 学会等名 EASSSR(East Asian Society for the Scientific Study of Religion) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tsuyoshi Tokuda
2. 発表標題 Multicultural Coexistence and Religion in Contemporary Japan (3): The Foreign Residents and the Catholic Church in Rural Areas
3. 学会等名 EASSSR(East Asian Society for the Scientific Study of Religion) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirofumi Okai
2. 発表標題 Multicultural Coexistence and Religion in Contemporary Japan (5): A case study on Islamic Organizations
3. 学会等名 EASSSR(East Asian Society for the Scientific Study of Religion) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Norihito Takahashi
2. 発表標題 Multicultural Coexistence and Religion in Contemporary Japan (6): Support Activities for Technical Intern Trainees and Refugees by FBOs
3. 学会等名 EASSSR(East Asian Society for the Scientific Study of Religion) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白波瀬 達也
2. 発表標題 「移民の宗教」に関する研究動向
3. 学会等名 「宗教と社会」学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 徳田 剛
2. 発表標題 地域政策理念としての「多文化共生」と宗教セクターの役割
3. 学会等名 「宗教と社会」学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 星野 壮
2. 発表標題 カトリックと多文化共生
3. 学会等名 「宗教と社会」学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡井 宏文
2. 発表標題 イスラームと多文化共生
3. 学会等名 「宗教と社会」学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 徳田 剛
2. 発表標題 地域国際化協会の現況と課題 “国際交流”と“多文化共生”のはざままで
3. 学会等名 日本都市社会学会第35回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 徳田 剛
2. 発表標題 地方都市・中山間地域の自治体による多文化化戦略(1) 鳥根県出雲市、京都府京丹後市の事例
3. 学会等名 日本社会学会第90回大会
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 岡井 宏文
2. 発表標題 日本におけるイスラーム団体の形成と活動の変容    イスラーム復興運動と成員の多様化に注目して
3. 学会等名 日本社会学会大会第35回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡井 宏文
2. 発表標題 在日イスラーム団体の形成と諸活動の展開    タブリーギー・ジャマーアトと多文化的状況に注目して
3. 学会等名 日本中東学会第33回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 TAKAHASHI Norihito and SHIRAHASE Tatsuya (高橋典史・白波瀬達也)
2. 発表標題 Multicultural Engagement of Religious Organizations in Contemporary Japan
3. 学会等名 International Society for the Sociology of Religion 34th Conference 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 久保田 浩、鶴岡 賀雄、林 淳、深澤 英隆、細田 あや子、渡辺 和子、白波瀬 達也、高橋 典文	4. 発行年 2020年
2. 出版社 リトン	5. 総ページ数 480
3. 書名 越境する宗教史 上巻	

1. 著者名 池澤 優、藤原 聖子、堀江 宗正、西村 明、星野 壮	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 286
3. 書名 いま宗教に向きあう1 現代日本の宗教事情 国内編	

1. 著者名 高橋 典史、白波瀬 達也、星野 壮	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 240
3. 書名 現代日本の宗教と多文化共生	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡井 宏文  (OKAI HIROFUMI)  (10704843)	早稲田大学・人間科学学術院・その他(招聘研究員)   (32689)	
研究分担者	高橋 典史  (TAKAHASHI NORIHITO)  (50633517)	東洋大学・社会学部・教授   (32663)	
研究分担者	徳田 剛  (TOKUDAI TSUYOSHI)  (60346286)	大谷大学・社会学部・准教授   (34301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	星野 壮  (SO HOSHINO)  (60725381)	大正大学・文学部・専任講師    (32635)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 EASSSR(East Asian Society for the Scientific Study of Religion)	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
英国	マンチェスター大学		